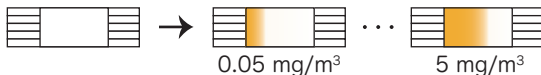


DT10

 神経剤(G剤)


実寸(約10cm)

感度	0.05 mg/m ³
吸引量	ハンドポンプ 30 回吸引(1 回 100 mL), 自動ポンプ 3 リットル(3L)
色変化	神経剤が存在する場合: 灰色から黄～オレンジ色に変色します。 
反応原理	アミノペルオキシド反応[Aminoperoxide reaction]
解説	検知管は1つの指示層と2つのアンブル(試薬溶液入り)で構成されています。指示層には、リン酸ナトリウム[sodium phosphate]を含浸させたシリカゲル[silica gel]が含まれています。上部のアンブルには、イソプロピルアルコール[isopropyl alcohol]と水の混合液に溶解した過酸化水素溶液が含まれています。下部のアンブルには、アセトンに溶解した o-ジアニシジン溶液[o-dianisidine]が含まれています。
検出方法	①検知管の両端を折る。 ②ハンドポンプで30回(1回 100 mL)または自動ポンプで3L 空気を送る。 ③アンブルを割る。 ④よく振り、アンブル内の薬剤を指示層に浸す。 ⑤色の変化を確認する。
選択性	検出できるのは、G タイプの神経ガス(タブン、サリン、ソマン、サイクロシン)です。その他の化学剤(CWA)のうち、ホスゲン、ジホスゲン、クロロシアン化物が同様の反応をします。
干渉性	強力な酸化剤、例えば塩素や二酸化窒素[nitrogen dioxide]は、o-ジアニシジン[o-dianisidine]と直接反応し、同様の発色をする。
温度	10～50℃(10℃以下では加熱が必要)
湿度	依存せず(反応過程で水が含まれるため)